



friendship force

WESTERN TOKYO

® FF西東京クラブ会報39号(2023~24年)



2023年のFFI世界大会に参加して

高垣 孝

去る10月2日から5日にかけて、FFI世界大会はクロアチアのドブロヴニクのシェラトンホテルで開催されました。世界24か国86クラブから約290名の方が参加し、うち日本からは5クラブ18名の方が参加しました。4年ぶりの開催でしたが、コロナ禍の影響か参加者が以前より、やや少ない感じがしました。しかし久しぶりの世界大会とあって、前夜の歓迎ドリンクセッションから熱気溢れる雰囲気でスタートしました。特に私は今年の4月に西東京クラブが受入れた、オーストラリア シドニークラブのRobin Doohanさんや、サンシャインコーストのMike & Robyn McFarlaneさん夫妻と再会を喜び合いました。また2019年に受入れたグレーターオーランドクラブのMary Jane Devaultさんからも声をかけられ、なつかしく思い出しました。更に私は参加しませんでしたが、今年の6月に渡航したルーマニア シビウクラブの会長Camelia Gigoreさんにも会場でお会いし、先日の渡航のお礼を申し上げると共に、来年5月頃西東京クラブへのショートステイを歓迎する旨、お伝えしました。

このように世界大会では希望するクラブへの渡航、受入を非公式に打診する場としても活用できるので、役員の方々の参加が望まれます。さて世界大会では、FFIの会長Jeremi Snookの開会スピーチ、クロアチア唯一のFFザグラフクラブの創設者で前会長だったPjerina Dekanovicさんの歓迎スピーチの他、女性の物理学者でエコロジストのDr. Marlena Cukterasさんのスピーチに特に感銘しました。彼女が主催する観光立国クロアチアの環境汚染問題(特にプラスチックゴミ)を支援する、Island Clean-up & Sightseeingというオプショナルツアーに参加しました。30人ぐらいの参加者と共にドブロヴニク周辺の島の1つに小型船でクルーズして、観光客が捨てたプラスチックゴミが渡された大きな袋が一杯になるまで、収集作業を全員で行いました。この大量のプラスチックゴミは船で本土に持ち帰って処分されるようです。ワークショップではFFIの新しいビジョン初め、文化、メディア、技術、渡航、受入の多様性それに関わる諸問題を多岐に渡って議論されました。今回の世界大会を通じてFFIもコロナ以前と違うビジョンや戦略が求められ、各クラブ及びメンバーが今後どう対応していくか注目されるところです。



＜ニューカレドニア、ヌメアクラブ渡航報告＞ AC 今村佐知子

10月30日～11月6日迄西東京クラブ7人と郡山クラブ2人の計9人でニューカレドニアに渡航しました。真夜中ホストの暖かな歓迎の中それぞれのステイ先に移動。

ニューカレドニアは「天国に一番近い島」として人気の島ですが、今回の渡航では日本とニューカレドニアの130年に渡る歴史も学びました。首都ヌメアから車で2時間、東海岸に位置するThioには第2次世界大戦が起こるまでの間5581名の日本人男性がニッケル鉱山で働くためにニューカレドニアに渡ったそうです。貯金も出来帰国間近の労働者は日本による真珠湾攻撃で運命が一変します。敵国としてオーストラリアの刑務所に収容され全員の帰国もままならず財産も没収され現地に残った日本人はそこで一生を終えました。日本人の血を引きながら日本の文化を何も知らないと嘆いていたるガイドさんがいました。

世界遺産にも登録されている何処までも青い海と空、美食の国、世界最大のラグーンと魅力満載の フランス領ニューカレドニアですが Thio を学び訪れてお墓参りが出来たことが FFでの渡航ならではの最大の収穫でした。

＜やっと行けたニューカレドニア ＞

松塚邦子

飛行機の到着が深夜にもかかわらず、ヌメア空港にはFFヌメアクラブのメンバーの方々がレイを持って迎えてくださいました。スケジュールにもバラエティがあり、楽しませてもらいました。

Thioの採鉱所では、日本人3世の方から日本人労働者の苦労話を伺い、その後、日本人墓地へお墓参りができたことが、この旅行での一番の収穫だったように思われます。アメデ島では、海水浴(足だけ)をしたり貝を拾ったり。お昼には、盛りだくさんのブッフェランチ、ダンスショウ。その後、グラスボトムボートに乗り、沖にてて黄色や緑の美しい熱帯魚や亀をみたり、何十年かぶりに海を満喫しました。

FFヌメアクラブのみなさん、ホストのジョセリンさん、有難うございました。



昼食は地元のカナック料理で、鶏肉、豚肉、魚、野菜、タロイモなど珍しい料理が沢山並ぶテーブルで、会話もはずみ賑やかな楽しい食事会でした。

田中正子

スラムがあると聞いたことや、焼かれて放置された車を見たりして、現地人と移住のフランス人の間には、軋轢があることを知りました。

八塚住子



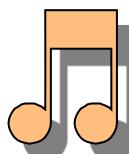
深大寺散策

(八塚住子)

天気はあいにくの曇り。でも風は無く、人も少なめで、メンバー7人、のんびり散策できました。

調布駅からバスで深大寺入り口まで、およそ30分。門前からすでに、古刹の雰囲気が漂い、名物深大寺蕎麦の幟旗が。本堂わきには、ムクロジ(無患子)の大木が、たくさん実をつけていました。ボランティアガイドさんの説明を聞きながら、国宝の仏像を拝観したり、紅葉をめでたりしながら、ゆっくり歩いているうちに、程よく、おなかもすいてきました。めいめい好みの蕎麦を注文して、体の中側も温まりました。

そこから神代植物公園は地続き。見事なバラがたくさん咲いていました。温室の洋ランや大輪のベゴニア 珍しい熱帯植物など、見飽きません。休憩室で、久しぶりのおしゃべり会が出来ました。「やっぱりFFはいい会だね」との声も出て、幸せな一日が暮れていきました。



ブラジルのクラブのデイホスト 高垣 孝

2023年10月のクロアチア ドブロヴニクの世界大会で、ブラジル Riberao PretoクラブのSimone Lanzoniさんと偶然知り合いました。Simoneさんは南米代表でFFIの前Board Directorを務めていました。このクラブは世界大会後の10月末に長崎クラブと静岡クラブに渡航予定で、その前に東京に寄るので、2日間(10月23日と24日)デイホストをしてもらえないかという要請がありました。西東京クラブは10月30日からヌメア渡航があるので、対応は難しいと思いましたが、その場で何とかしますと承諾しました。

帰国後、西東京クラブでこの話をしたのですが、案の定急な話ということもあって都合の悪い方が多く、結局デイホストは我々夫婦を含めて4人しか集まりませんでした。これでは2日間のデイホストは負担が大き過ぎるので、家内の先生仲間で英語ガイドの資格を持っている方や、私の娘にも応援を依頼しました。今回は事前準備している暇もなかったので、2日間とも地下鉄1日乗り放題の切符(900円)で東京を案内することにしました。

1日目は彼らが宿泊している、銀座ホテルサンルートの最寄り駅銀座一丁目から出発し、東京タワー、築地場外市場(昼食)、浅草と地下鉄のみを使って回りました。2日目は同じく明治神宮、都庁(食事、展望室)、皇居(二重橋)、渋谷スクランブル交差点(付き添いはせず)を回りました。総勢Fortalezaクラブの方も含めて9名でした。英語を話せる方は少なかったのですが、2日間とも好天に恵まれ、ブラジル人特有の明るく陽気な雰囲気で東京観光を共に楽しむことができました。各地で買い物等で、予想以上の時間がかかりましたが、2日間でうまく時間調整することができました。その後、彼らは長崎クラブ、静岡クラブのホームステイを終え、成田からドバイ経由でサンパウロへ帰国しました。急なデイホストで、1部の方にご負担をおかけしましたが、ブラジル人との楽しい2日間の交流ができました。



ホームコンサート at 戸ヶ崎邸 (12/17)

参加者は、コンサート11名（西東京9名、東京2名）、懇親会10名でした。出演は6組、歌、クラリネット、ピアノ、ギターで、ソロやアンサンブルもあり、少ないなりに、いろいろ揃いました。

今回観覧だけの方からも、次回は出演も！という声もあり、刺激になったようでよかったです。

コンサートの後は、持ち寄りパーティで懇親会。

皆さん、腕に寄りをかけたお料理をお持ちくださり、おしゃべりは尽きず、笑いの絶えない懇親会になりました。

次回はまだ決まっておりませんが、また企画しますので、ご参加お待ちしております。

（戸ヶ崎正次）



Xmas会 開かれました！(12/23) つくし野



＜新会員紹介＞田中仁一(ひとかず) 市村鈴江 佐原宏太 大場佳世子

＜退会者＞永田末子 北川賀子 山本敏雄 石田充 井出万里子
下向秀子 田中富美子 田中心桜 松尾栄子

会報39号 担当:佐藤薰 kaosan@ja3.so-net.ne.jp
(2024年1月 発行)